

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：9月6日（火）11:00～11:20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組

《8月のおはなし会で使った本》

『あついひのおともだち』 かとうようこ/脚本 童心社 2019.8

『おばけのてんぷら』 せなけいこ/作・絵 ポプラ社 2004.4

『むしむしかくれんぼ』 堀川波/作/絵 教育画劇 2012.9

『せんろはつづくどこまでつづく』 鈴木まもる/文・絵 金の星社 2022.2

○申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター

（電話：083-924-2111 FAX:083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『た』 田島征三/作 佼成出版社 2022.4 ¥1300

古来から日本人は稲作を中心とする農耕によって命をつないできた。たがやす、たねまく、たくましくそだつ、たわわにみのる、「た」からはじまる宝のようなことば。たよる、たすける、たすけあう、たくわえる、たたえあう、たのしむ、たべる、など、希望とパワーに満ちた豊かなことばの数々。力強いタッチで描かれた生命力にあふれる画。すべての命の源がこめられたような絵本。

『まっくらあそびしようよ！』 はたこうしろう/作 ほるぷ出版 2022.6 ¥1400

今日はおばあちゃんちの屋根裏部屋におとまり。まっくらすぎてねむれないほくに、「まっくらあそびしよう」とおにいちゃん。まずは懐中電灯を使って影あそび。いろんな形の影が大きくなったり小さくなったり薄くなったり濃くなったり。ライトとカメラを使ってできる光のおえかきも教えてくれた。まっくらだからできる、楽しいまっくらあそびの方法を紹介した楽しい絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『がっこうにまにあわない』 ザ・キャビンカンパニー/作・絵 あかね書房 2022.6 ¥1500

午前7時47分。ぼくは玄関を飛び出した。「学校にまにあわない！」今日は8時までに絶対に行かなきゃいけないのに、なんでねぼうしちゃったんだ。いつもの道なのになんか変。大きなみずたまりや苦手な犬たちやぐにやぐにゃの歩道橋やふみきりがぼくの行く手を邪魔する。逃げ逃げ！ようやく学校が見えてそこに待っていたのは…。ドキドキ感とワクワク感が交錯する楽しい絵本。

『庭にくるとり』 石川えりこ/作・絵 ポプラ社 2022.6 ¥1600

ぼくは、おじいちゃんが一人で住むお母さんの実家で暮らすことになった。学校から帰ってくるとおじいちゃんは、鳥のエサ台を作っていた。そう簡単にくるもんか、とぼくは思ったが、ある日ヒヨドリが姿をみせ…。鳥の名前や木の実の種類をたくさん知っているおじいちゃんと、鳥や樹木への興味がどんどんふくらんでいくぼくとの距離が次第に近づいていく様子をあたたかく描く。

<絵本-小学校中学年から>

『スイッチおねこ』 朝倉撰/絵 大佛次郎/文 青幻舎 2022.7 ¥1800

虫たちが美しい声で鳴くある秋の夜、白い子ねこの白吉が、大きなあくびをした拍子に、何かの口の中へとびこんできた。しばらくするとおなかの中から「スイッチ」と虫の鳴き声がするようになり…。愛猫家の作家の優しく温かい文章と愛くるしい猫の表情を生き生きと描き出した美しい画。朝倉撰の生誕100年を記念して刊行された新装版。不朽の名作童話絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『ひろしまの満月』 中澤晶子/作 ささめやゆき/絵 小峰書店 2022.6 ¥1200

ある家の庭にある古い池に住むかめのみめ。みめは悲しくて泣いたある満月の夜から、人と話ができるかめになった。そこへ越してきたのは小学2年生のかえでちゃん家族。みめは、かえでちゃんに大事なことを伝えようと決心する。それは戦争中の広島でのあの日、かつての飼い主まつこちゃんとその家族のこと。「戦争はかなしみのもとです」と。戦争の記憶を伝え、平和を願う物語。

<読み物-小学校中学年から>

『生まれかわりのポオ』 森絵都/作 カシワイ/絵 金の星社 2022.6 ¥1400

ポオは黒ぶちもようで背中にきれいなハートマークをもつネコ。ママは十数年前にポオと出会い、九年前にぼくが家族に加わった。ある日いつも一緒だったポオが亡くなった。泣き続けるぼくに、作家のママがぼくのためにつくった新作をかきあげた。タイトルは『生まれかわりのポオ』。ポオの命は物語のなかでめぐっていく。限りある時間の中で紡がれる命について考える物語。

『ライスボールとみそ蔵と』 横田明子/作 塚越文雄/絵 絵本塾出版 2022.5 ¥1300

小学4年生の男の子ジュンの家は、代々古い蔵で手作りみそを作っている。友達から「みそっ子」とからかわれるのがいやでたまらない。ある時、ロンドンから転校してきたユキちゃんに蔵を見たいと頼まれる。ユキちゃんとともに、みその文化や料理に触れる中で、みその良さを再発見するジュン。身近な伝統を知り、周りの人に伝えようとするジュンの姿を応援したくなる物語。

<読み物-小学校高学年から>

『ぼーちゃん』 次良丸忍/作 金の星社 2022.6 ¥1500

最新型の映像投影機スーパーイメージプロジェクター「SIP」は母さんの会社で開発中の新商品。そのSIPに、2年前に亡く

なった祖母の日記や写真のデータを入力してこづかいを稼ぐ小学生の充希。ついにS I Pを起動させるとリアルな祖母の立体映像が現れた。ばあちゃんそっくりだけれど、ばあちゃんじゃないばーちゃん。生身の人格や個性、感情について考えさせられる物語。

『じいちゃんの山小屋』 佐和みずえ/作 カシワイ/絵 小峰書店 2022.6 ¥1500

父親の再婚が原因で大喧嘩になり家を飛び出した小学6年生の航太。飛行機、電車、バスを乗り継いできたのは四国のじいちゃんの家。電気も、お風呂も、トイレもない。そのうえ、シイタケの収穫やミツバチの見張りなど山の仕事の手伝いをさせられる。日々の暮らしのささやかな発見や出会う人達とのふれあいを通して祖父や父の思いも知り…。たくましく成長していく男の子の物語。

<読み物—中学生から>

『目で見ることばで話をさせて』 アン・クレア・レゾット/作 横山和江/訳 岩波書店 2022.4 ¥2100

11歳の少女メアリーが暮らすのは、ボストン南東部に位置するマーザス・ヴィンヤード島。この島の住人は誰もが手話で話し、メアリーも不自由を感じずに暮らしているが、事故で兄を失って以来、悲しみに暮れている。ある日、ボストンからやってきた若い研究者に母が兄の本を渡してしまう。兄の本を追いかけたメアリーは、研究者に誘拐され…。19世紀初頭の実話を基にした物語。

『両手にトカレフ』 ブレイディみかこ/著 ポプラ社 2022.6 ¥1500

ミアは8歳の弟と薬物中毒の母親と3人で、公営住宅に住む14歳。ある日学校を抜け出し、空腹のあまり入った図書館で借りた青い表紙の本、カネコフミコの自伝に、ミアは自身を重ね合わせ夢中になる。自分の境遇を誰にも話せないミアだが、同級生のウィルにリリックを書いてほしいと頼まれた日から、周囲との関係が少しずつ変わり始め…。生きようともがく少女たちの物語。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『きょうは選挙の日。』 塚本やすし/作 汐文社 2022.6 ¥1600

選挙の日には、おしゃれをして、投票して、おいしいものを食べて…。ある家族の選挙の一日を描く。選挙の4つの大切なきまりや投票所の様子、選挙用語について平易な言葉や図解で分かりやすく解説する。戦争の悲惨さなど社会へのメッセージを絵本で伝える筆者が、日常の延長にある選挙について取り上げる。子どもと一緒に「投票について」考えるきっかけとなる一冊。

『おさほうえほん』 高濱正伸/監修 林ユミ/絵 日本図書センター 2022.6 ¥1500

相手を大切に思う気持ちを行動や言葉というカタチにして伝えるのが「おさほう」。あいさつや言葉のかけ方などの好ましい行動や言葉について、その理由や具体的な所作を、かわいイラストで紹介する。巻末にはおさほうクイズ、筆者から保護者へのメッセージも掲載。筆者は学習塾「花まる学習会」を設立しメディアでも多数登場している。親子で読みたい日常に役立つ一冊。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『光にむかってサーロー節子ノーベル平和賞のスピーチ』 サーロー節子/述 くさばよしみ/編 やまなかもこ/絵 汐文社 2022.5 ¥1700

1945年8月6日、広島に原子爆弾が投下された。当時13歳だったサーロー節子さんは奇跡的に生き延び、9年後にアメリカに渡る。以降、I CAN「核兵器廃絶国際キャンペーン」の一員として世界から核兵器をなくす運動を続ける。2017年のノーベル賞授賞式で世界中に核兵器の恐ろしさを力強く訴えた彼女の英語スピーチを、小中学生にもわかりやすいように意識した絵本。

『海をわたる動物園』 いちかわけいこ/作 村田夏佳/絵 アリス館 2022.5 ¥1400

戦後間もない頃、大学生のシュンは友人達とアフリカへの撮影旅行の帰り、動物達を運ぶ船に偶然乗り合わせた。からっぽになった日本の動物園を再開させたいと願う香川と出会い、動物の世話を始める。約2か月かけ62頭の動物たちと日本をめざす。筆者が聞いた実話を基に5年をかけて書き上げたお話。目次ページにはモデルとなった筆者の父、今村俊輔(シュン)の写真に掲載。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『おれに登場した偉人たち21人』 河合敦/著 あすなろ書房 2022.5 ¥1400

神功皇后が日本で初めて人物肖像が入った紙幣に選ばれて以来、21人が紙幣に描かれてきた。それらの人物がどんな業績を残し、歴史上どのような役割を果たしたかについて、豊富な資料をもとに分かりやすく紹介。筆者は、大学の史学科で教鞭をとる傍ら、歴史作家・歴史研究者として数多くの著書を刊行。2024年に紙幣デザインが一新される前に読んでおきたい一冊。

『宇宙食になったサバ缶』 小坂康之 別司芳子/著 早川世詩男/装画・挿絵 小学館 2022.7 ¥1500

福井県小浜市の若狭高校では、地域の魚介類を活かした食品の研究に取り組む等「海の探求学習」がさかん。自分達の作る鯖缶を宇宙食にしたい。衛生面、作業工程、味など様々な問題に立ち向かう。「鯖街道を国際宇宙ステーションまで」を合言葉に、JAXA認証宇宙日本食「サバ醤油味付け缶詰」を作った高校生達と支えてきた大人たちの14年の奮闘を描いたノンフィクション。

<ノンフィクション—中学生から>

『中学生から知りたいウクライナのこと』 小山哲・藤原辰史/著 ミシマ社 2022.6 ¥1600

著者は「自由と平和のための京大融資の会」のメンバー。ウクライナの隣国ポーランド史が専門の小山氏と、食と農の歴史が専門の藤原氏が、今年3月に行ったウクライナを取り巻く歴史に関する講義と対談を書籍化。世界地理でも「黒土地帯」と学習する地域が、これまでに大国の思惑で翻弄されてきた経緯が学べる。ウクライナのみならず、国同士の関係を考えるきっかけとなる1冊。

<研究書>

『図説アルプスの少女ハイジ 増補改訂版『ハイジ』でよみとく19世紀スイス』 ちばおゆり・川島隆/著 河出書房新社 2022.6 ¥1920

CMに起用されるほど、日本国内ではアニメでの印象が定着した感のある『アルプスの少女ハイジ』。本書では、アニメの原作となる「ハイジ」について、作品に登場するスイスやドイツの街並みや歴史的背景を解説。各国での「ハイジ」の受容状況や、作者ヨハンナ・スピリに関するデータも豊富。日本のアニメ版が世界中に与えた影響の大きさに驚かされる。

『教師は学校図書館をどう使うか インタビュー●箕面市にみる司書と教師の協働』 高木享子/著 教育史料出版会 2022.6 ¥2300

著者は箕面市内で学校司書として勤務した後、関西の大学で司書教諭科目を担当。本書では、箕面市における学校図書館の整備・充実のための取り組みや、職員の研修体制の確立までを時系列で紹介。現場で実践されている教師5人のインタビュー記録やそこからの様々な視点からの考察は大変興味深い。学校図書館の「はたらき」や職員の「協働」など、参考となる事例を多数掲載。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

